

大学名	国際大学		
University	International University of Japan		
学部/研究科	国際関係学研究科		
Faculty/Department	Graduate School of International Relations		
研究指導者	柿中 真	職名	研究科長・教授
Research Advisor	Kakinaka, Makoto	Position	Dean and Professor
帰国留学生	カリヤー ニー トウン		
Former International Student	Kalyar Nay Tun		
派遣期間	2013年 9月 19日 ~ 2013年 9月 26日 (8 日間)		
Period of Stay	8 days (September 19, 2013 - September 26, 2013)		

<帰国留学生プロフィール/Profile>

国籍	ミャンマー
Nationality	Myanmar
所属機関	ミャンマー中央銀行
Affiliation	Central Bank of Myanmar
現在の職名	アシスタント・ディレクター
Position	Assistant Director
研究分野	経済学
Major Field	Economics



研究指導風景
Conducting Research Guidance

<研究指導者からの報告/Research Advisor Report>

①研究指導概要 / Outline of Research Guidance
近年、開放政策に転じたミャンマーでは、中央銀行を含めた金融制度改革に取り組んでいる中、金融政策の効率的運営は最重要課題となっている。本研究指導の目的は、中央銀行で金融政策を掌る部署に所属している修士生と共同で、ミャンマーにおける金融政策、為替レートとインフレーションの相互関係に関する経済学的考察を行い、実際の金融政策の方向性及び遂行の有効性を議論することである。具体的な研究指導としては、まず、当該生に対して近年応用されている金融理論・時系列分析に関する個別講義・議論を行った。次に、現在のミャンマー金融制度改革及びIMFからの政策指導を考慮した上で、金融・為替政策と物価の相互関係に関する理論的背景を計量分析も交えて議論を行った。最後に、実際の時系列データを基に計量モデルの予備的な推定モデルを特定化し、物価安定に資する今後のミャンマーの金融・為替政策の在り方を考察した。
②研究指導の成果 / Results of Research Guidance
当該修士生は、修士論文で、ミャンマーでの為替と物価の関係を時系列分析にて考察し金融政策を論じた。近年、開放政策に転じたミャンマーにとって、金融政策の効率的運営は最重要課題であり、当該修士生は、現在、中央銀行で金融政策を掌る部署に所属している。本研究指導において、金融制度改革を考慮した上で、ミャンマーにおける金融政策、為替レートとインフレーションの相互関係について経済学的考察を再度議論し、実際の金融政策の方向性及び遂行の有効性を再考察できたことは、当該生の学術知見向上のみならず中央銀行金融政策担当部署の質的向上に大きく貢献すると見込まれる。また、現在、IMFの指導の下、金融政策の今後のガイドライン（マネーサプライの目標などを含む）を吟味するポジションにある修士生にとって、今回の指導及び議論を実施する機会を得たことは、金融政策を遂行する職員の能力向上に大きな意義があったと見込まれる。
③訪問大学等での学術交流 / Scholarly Exchanges Done at Universities Visited, etc.
研究指導期間中において、（１）経済開発投資省の行政官とミャンマーの経済開放政策に関する意見交換・議論、（２）経済開発投資省及び中央銀行の行政官に対する日本の修士課程に関する情報提供、（３）中央銀行職員（調査・研究部門）に対するマクロ経済・国際金融に関する3日間の短期研修の実施、（４）国際大学とミャンマー政府管轄研究教育機関との学術交流（研修含む）に関する意見交換、を行った。まず、（１）においては、現在進行中であり、日本を含む先進国が支援している経済特区（Economic zone）及び証券取引所新設に絡む資本市場の役割、金融制度改革などを中心に議論を行った。（２）については、政府機関の職員教育の一環として日本の修士課程への行政官派遣を中心に事例を交えながら情報提供した。（３）については、昨年度に引き続き、中央銀行職員向けに基礎的な統計学を教授しつつ、マクロ経済・国際金融に関する経済分析手法をコンピュータを用いて研修を行った。（４）については、経済開発投資省や外務省が今後新設する予定の大学院レベルの教育機関の支援に国際大学がどのように貢献できるのかを議論した。本来の渡航目的である帰国留学生に対する指導に加えて、上記の事業を実施したことは、ミャンマー経済改革に資する行政官の育成に大学として大きく貢献できたと思われる。

<帰国留学生からの報告/Former International Student Report>

①研究指導の成果 / Results of Research Guidance

We discussed how to analyze our issue by using econometric methods and identified the empirical model successfully. Analysis on this model would derive several economic intuition, which is helpful to understand financial system in Myanmar.

②今後の計画 / Further Research Plan

In order to understand Myanmar financial system, I have a plan to continue to conduct this research with my supervisor by using econometric methods. This would contribute to my future career in Monetary Policy Department of Central Bank of Myanmar.

③本事業に対する意見・感想等 / Your general impression and opinion about the Follow-up Research Guidance

This program is very useful for former students who studied in Japan. Thus, this program should be strengthened in the future.



国際大学・ミャンマー中央銀行短期特別研修
IUJ- Central Bank of Myanmar Special Training Program



ミャンマー中央銀行金融政策局オフィス内にて
At the Monetary Policy Affairs Department, Central Bank of